

今週の為替相場見通し(2018年4月23日)

総括表		先週の値動き			今週の予想レンジ	
		注	レンジ	終値		
米ドル	(円)		106.89 ~ 107.86	107.64	105.50 ~ 109.00	
ユーロ	(ドル)		1.2250 ~ 1.2414	1.2290	1.2200 ~ 1.2400	
(1ユーロ=)	(円)		132.05 ~ 133.09	132.30	131.50 ~ 133.50	
英ポンド	(ドル)		1.3996 ~ 1.4377	1.4007	1.3800 ~ 1.4150	
(1英ポンド=)	(円)	*	150.68 ~ 153.76	150.74	148.50 ~ 152.00	
豪ドル	(ドル)		0.7655 ~ 0.7813	0.7669	0.7580 ~ 0.7850	
(1豪ドル=)	(円)	*	82.43 ~ 83.95	82.60	81.00 ~ 83.80	

(データ)先週の値動きに関して、注の欄で無印の項目はみずほ銀行、*印の項目はブルームバーグ。

1. 米ドル

為替営業第二チーム 橋 雄史

(1)今週の予想レンジ: 105.50 ~ 109.00 円

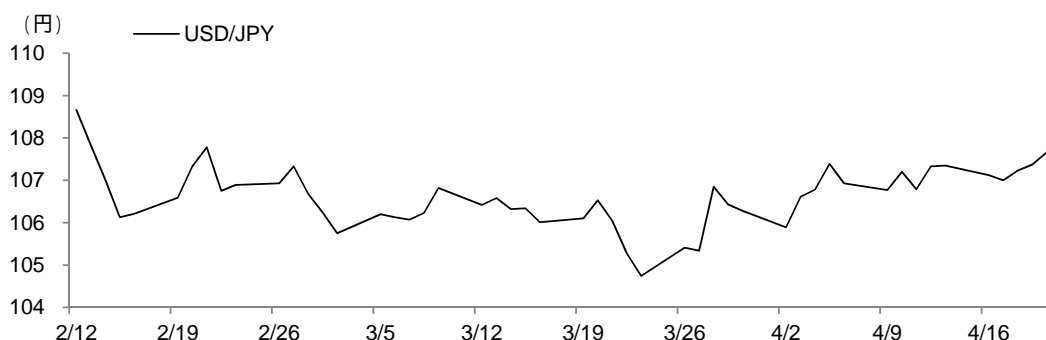
(2)ポイント【先週の回顧と今週と来週の見通し】

先週のドル/円相場はじり高の展開。週初16日に107円台半ばでオープンしたドル/円は、シリア情勢緊迫化への懸念が後退する中で107.61円まで上昇。17日は日米首脳会談における警戒感から一時週安値106.89円をつけたが、ムニューシン米財務長官が「トランプ大統領の前日のツイートは通貨切り下げを巡る中国とロシアへの警告でありドルの押し下げを意図したものではない」と発言したことから107円台前半まで反発。18日はWTI原油先物の上昇やトランプ政権がロシアに追加制裁を課す計画はないとの関係者談を受け、107円台前半にてじり高で推移。19日は日米首脳会談が波乱なく終了したことで警戒感が和らぎ、107円台半ばまで上伸した。20日は原油やコモディティ価格の上昇からインフレ圧力の高まりが意識され、米債利回りが2.96%台まで上昇したことでドル/円は週高値107.86円まで上昇し、結局107円台後半で越週した。

今週・来週のドル/円相場は、じり高基調継続も上値重い推移を予想する。先週は日米首脳会談を控える中でトランプ大統領の発言に注目が集まったものの、市場が警戒したほどの悪い結果とならなかったことで、ドル/円の売り圧力は後退した。ただし、G20会合では米国の保護主義政策をめぐる各国からは懸念表明がなされたものの、米国の強行姿勢は崩されず、保護主義政策を巡る懸念は継続している。地政学問題については先週21日には北朝鮮が核実験・ミサイル発射の中止を表明するなど、4月27日の南北首脳会談を前に交渉前の地ならしを進める様子も見られ、米朝首脳会談を前に楽観姿勢が強まる展開も意識されるところであるが、米国株式市場に目を向けると、減税政策に伴い米企業は1~3月期では7年ぶりの増益率を確保するなど好調な決算結果を迎えている一方、足元の調達金利の上昇や半導体セクターの先行き後退観測から投資家のリスクセンチメントが悪化しており、先行き期待に慎重なムードが漂っている。本邦については想定為替レートが前年対比で円高に設定されることが予想される中、企業業績の先行きにも慎重な見極めが必要となる中、日経平均株価もGWを前に様子見ムードの展開が予想される。経済指標では今週23日(月)に米4月総合PMI(速報値)、米3月中古住宅販売件数、26日(木)に米3月耐久財受注、27日(金)に米第1~3月期GDP(速報値)の発表が予定されている他、来週5月1~2日にかけてはFOMC、4日(金)は米4月雇用統計を予定。ドル/円について108円台を前に上値重い推移が継続しているものの、米中の貿易戦争トピックにも一服感が見られており、ドル売りが一服する中で、上値を試す展開となるか。

(3)先週までの相場の推移

先週(4/16~4/20)の値動き: 安値 106.89 円 高値 107.86 円 終値 107.64 円



(資料)ブルームバーグ

お客さま各位

ここではレポートの一部をご紹介します。
しています。

レポート全ページをご希望の方は、
お取引いただいているみずほ銀行の
お取扱店、またはお取引担当部まで
お問い合わせください。

以上